

よこすか ECO通信

No.46
(令和4年9月)



《発行》
横須賀市、
環境教育・環境学習推進懇話会

よこすかの里山

さとやま

「里山」という言葉を聞いたことはありますか？

里山は、人々が暮らしの中で農業や林業などを営むことによりつくられた、人の手が入った自然環境であり、生活の場です。人が生活を営むための田んぼや畑、水路、雑木林などには多くの生きものが暮らししており、人と自然が共生した場となっていました。



人の暮らし方が変わり、農林業を営む人も減ったことで、次第に里山は生活の場ではなくなっています。人の手が入らない自然環境は荒廃し、里山自体が昔と比べて少なくなりました。里山がなくなるということは、里山に暮らし多くの生きものたちのすみかもなくなってしまうということです。

人が里山を生活の場とすることは、多様な生きものたちの生活の場が生み出されることであり、人と自然の共生の証でもあります。

横須賀では、今も残る里山とは別に、長坂や野比かがみ田において里山の環境から生活の場を除いた「里山のような環境」（里山的環境）の再生、保全、維持管理を行っています。里山的環境は生物多様性を保全する場であり、また、市民が自然環境と触れ合える場でもあります。

里山の風景を次世代へ残すことは、目まぐるしく変化していく人の生活や社会と自然をつなげる接点となり、人と自然は共生しているということを再認識できるのです。

- ①ヒバカリ
- ②ニホンアマガエル
- ③コオイムシ
- ④タマムシ
- [①～③は長坂(田んぼ)、
④は長坂(沢山池)で発見]

《写真提供》
よこすか田んぼ研究会

横須賀いいね★エコ活動賞《学校短期活動の部》

学校などで取り組んでいる「いいね★」と思える環境活動や環境学習を募集・表彰します。
【応募期間：10月3日(月)～10月31日(月)必着】

対象

学級やクラブ活動などで原則1年以内に環境活動を行っている
または行った市内の学校、幼稚園、保育園、認定こども園など

応募方法

応募用紙に記入し、郵送、FAX、E-mailか直接、市役所1号館
5階ゼロカーボン推進課へ提出。応募用紙は市のホームページ
(<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/>) から「エコ活動
賞」で検索) やゼロカーボン推進課で9月下旬頃から配布します。

表彰式

令和5年1月にヨコスカ・ベイサイド・ポケット(横須賀芸術劇場)において表彰式を行います。

申込先・問い合わせ先

横須賀市環境部ゼロカーボン推進課 〒238-8550 横須賀市小川町11番地
電話：046-822-8327 FAX：046-824-5630
E-mail：ep-ep@city.yokosuka.kanagawa.jp



◆その他のイベント

ナイト ミュージアム

・夜の博物館内を
学芸員がご案内
します。

日時	場所	定員	申込	応募締切
10月22日(土) 18:30～20:00	横須賀市自然・ 人文博物館本館	100人 小中学生は保護者同伴	事前 申込制	10月7日(金)
申込先・問い合わせ先 ホームページ(https://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/) または往復はがきで 申込。往復はがきには往信面に①行事名と、参加者全員の②住所 ③氏名(ふりがな) ④年齢 ⑤電話番号、宛名面に代表者の①住所 ②氏名 を記入。 申込・お問い合わせ先：横須賀市自然・人文博物館(月曜休館、祝日・振替の場合は翌日)へ。 〒238-0016 横須賀市深田台95番地 電話：046-824-3688 E-mail： m-bes@city.yokosuka.kanagawa.jp				

①自然体験会 「里山の素材で リースづくり」

日時	場所	対象	定員	費用
11月27日(日) 10:00～12:00 (雨天中止)	沢山池の里山 (長坂5丁目)	市内在住・在勤・ 在学の小学生以上	抽選40人	一人1,000円 (リース1つ)

②自然体験会 「里山の素材で 門松づくり」

日時	場所	対象	定員	費用
12月18日(日) 10:00～12:00 (雨天中止)	沢山池の里山 (長坂5丁目)	市内在住・在勤・ 在学の小学生以上	抽選30人	一人1,000円 (門松1つ)

申込先・問い合わせ先

応募期間(①10月31日(月)～11月13日(日)、②11月21日(月)～12月4日(日))に
ホームページ「横須賀市の里山」(<https://yokosuka-satoyama.jp/>) から申込。

お問い合わせ先：横須賀市建設部自然環境共生課 電話：046-822-9832





ヤンバルトサカヤスデはオビヤスデ目ヤケヤスデ科に属する、体長3 cm前後のヤスデの一種です^{参考1}。本種は台湾原産でもともと日本にはおらず、1980年代前半の沖縄県での発生以降、鹿児島県、静岡県、八丈島(東京)と確認地域が拡大しています^{参考2}。本種は他の多くのヤスデと同様に、地表～地中に生息し落葉や朽木を食べることから[写真1]、植栽樹や鉢植え植物の土とともに運ばれたとされます。

ヤスデには、大量発生することで私たちの生活に影響を及ぼすものが知られています。オビヤスデ目ババヤスデ科のキシヤスデを代表格に、本種と同じヤケヤスデ科のタテオビアカヤスデおよびヤケヤスデの3種は、大量発生によって列車の運行を妨害した事例が知られ、ヤンバルトサカヤスデによる鹿児島県での列車妨害事例は国内4種めになります^{参考3}。

横須賀市および三浦半島でのヤンバルトサカヤスデの確認状況は、2003年11月の葉山町における大量発生が最初で、2005年に横須賀市の一部でも大量発生が認められました。その後の大量発生はほとんど知られていませんが、2021年には横須賀市各地から大量発生の報告が寄せられ[写真2]、逗子市や葉山町でもそれぞれ大量発生が確認されました。市内の情報や報告を取りまとめ、現地確認も行っている横須賀市保健所によると、本種の大量発生地では夜のうちに出現し、朝には行き場をなくした多数の集団が散見され、片づけても翌朝には新たな集団が現れることが数日続いたそうです。

本種は人に対して咬む／刺すといった加害はなく、花壇や農作物への害もないのですが、大量発生の際に敷地や屋内に侵入するため不害虫としての報告や、片付けでは大量かつ数日間続くため作業が大変なのと臭いを発するので気分が悪くなるといった報告が寄せられています。

ヤンバルトサカヤスデの一生は約1年、その大量発生は秋～初冬の群遊期と重なります[写真3]。つまり、生育条件が良いと本種は毎年大量発生し、実際に鹿児島県や八丈島では毎年のように大量発生が報告されたようです。三浦半島は現在分布拡大の北限にあたることから、2021年はたまたま生育条件が良く各所で大量発生したと考えられます。

侵入から20年以上が経過した八丈島では、侵入当初は大量発生が著しかったものの徐々に小規模・局地的になっており、ヤスデの専門家によると一部のヤスデでは開発などの大規模な環境変化の後に一時的に大量発生を生じる例があるとのことでした。また、これまでの分布拡大地域の報告からは本種の根絶が不可能であることもうかがえます。

横須賀や三浦半島でも、大量発生の際の環境条件に注目しながら、敷地や家屋への侵入や未発生の地域への拡散を防ぐ対策をとることで、本種と共存していくことになるでしょう。



[写真1] 朽木で見つけた時の様子。
周辺には小さく細長いふんが認められる。



[写真2] 群遊の際に水底を歩く様子。
長時間水没するとおぼれてしまうが、小さく流れの緩やかな水路や水たまり程度であれば歩いて渡ってしまう。



[写真3] オスとメスの体前部(腹部)。
オスでは一部の脚(矢印)が生殖肢に変化するため、メスと見分けが可能。

参考1:『日本産土壌動物 分類のための図解検索 第二版』

参考2: Ishida, Meyer-Rochow & Asano (2018) *Bull. Toyama Pref. Univ.*, (28): 35-40. (日本語要旨付)

参考3: 新島・有村 (2002) *Edaphologia*, (69): 47-49.

2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指します

横須賀市 ゼロカーボンシティ宣言



みなさまからのE C Oな情報も募集してます。



《発行》横須賀市／環境教育・環境学習推進懇話会 《協力》横須賀市自然・人文博物館

《発行元》〒238-8550 横須賀市小川町11番地 横須賀市環境部ゼロカーボン推進課

TEL: 046-822-8327 FAX: 046-824-5630

E-mail: ep-ep@city.yokosuka.kanagawa.jp

☆カラー版は横須賀市ホームページから「ECO通信」で検索！
<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4110/k-gakusyu/ecotushin/ecotushin.html>



☆「環境教育・環境学習推進懇話会」は、市民・事業者・学校・行政等のさまざまな主体が集まり、連携して市内全体の環境教育・環境学習の推進を図るための会議です。